

薬 剤治療抵抗性の不随意運動症を中心とする運動障害に対して、定位・機能神経外科が果たす役割は大変大きく、患者さんのADL, QOLの向上に大きく貢献しています。近年の医療工学技術の向上に伴い、体内植え込み型のデバイスの改良が進んでおり、さらに凝固・破壊術もリバイバルし、集束超音波による新たな治療も導入され、患者さんのニーズに合わせた治療選択肢が増えてきています。定位・機能神経外科の領域は今後もさらに多様化し、発展すると考えられます。

技術の進歩によって治療水準はある程度担保されると思われませんが、治療成績を大きく左右するのは手術の精度であることは現在も変わりありません。そのためには、定位・機能神経外科の基本をしっかりと習熟していることが重要と考えられます。

本号では、実臨床において大変経験豊富な先生方に定位・機能神経外科において役立つ知識・手術手技をわかりやすく解説していただきました。また、基礎となる神経解剖・神経生理の理解が、実臨床に直結するような内容・構成を目指しました。

第1章「定位・機能神経外科の基礎知識」では、定位・機能神経外科のこれまでの変遷と定位的脳手術を中心とした手術に必要な神経解剖・神経生理に焦点を当てています。

第2章「定位・機能神経外科手術の対象となる主な疾患」では、パーキンソン病、振戦、ジストニアの症候学、手術適応基準、治療選択肢と手術手技、治療効果を取り上げます。幅広い知識を持つことが重要です。

第3章「定位・機能神経外科の外科的治療手技」では、第1章の基礎を踏まえた上で、実際の手術手技について読者の方々に理解を深めていただきたいと思います。

第4章「定位・機能神経外科治療合併症とその対策」では、主として定位的脳手術での治療合併症の知識やその対策を学ぶことで、安全な治療の実践に役立てていただきたいと思います。

また、定位・機能神経外科の領域により関心を持っていただけるように、ご高名な先生方からもコラムをご寄稿いただきました。

定位・機能神経外科領域に新規に参入される若手脳神経外科医の数は近年減少していますが、若手の先生方にもこの領域に興味を抱き、参加してみたい、発展させたいと思っていただけるような魅力的な内容であれば望外の喜びです。

上利 崇

東京都立神経病院脳神経外科